

石垣島四カ字豊年祭

しかあぞ

沖縄県石垣島、西表島、与那国島などの八重山諸島では毎年7月から8月にかけて、今年の五穀豊穡に感謝し、来夏世（来年の夏）の豊作を祈願する豊年祭が開催されている。なかでも石垣島の中心にある石垣、新川、登野城、大川の4つの地区が合同で行う「四カ字豊年祭」は八重山最大級といわれている。

四カ字豊年祭1日目のオンプールでは、各地区にある御嶽（神を祀った聖地）で大神酒奉納などの儀式が行われ、さとうきびなどの優秀生産者の表彰式も行われる。2日目のムラプールでは新川にある真乙姥御嶽に4つの地区をはじめ、企業や学校などの団体が集結。「サーサーサー」の掛け声にあわせ、高さ約8m、重さ80kg以上のものもある旗頭を男性ひとり交代で持ち、奉納していく。旗頭には文字が記され、例えば石垣島製糖株式会社「蔗穂」はさとうきびの順調な生育を祈るという意味があるそうだ。合計14本の旗頭に太鼓や巻踊りが奉納されると、次に「五穀の種子授けの儀」が行われる。東から現れた農業の神が、西からくる真乙姥の神に五穀の種子を授けると、観客からは大きな拍手が巻き起こった。その後、豊作と子孫繁栄を願い、女性だけで大綱を結び合わせる「アヒヤー綱」が行われ、会場が一気に盛り上がる。そしてクライマックスは日が暮れる頃に始まる「ツナヌミン」。みこしに担がれた武者が東と西から登場し、たいまつの灯りのもと、勇壮な戦いが演じられる。戦いが終わると東西に分かれての大綱引きが行われ、祭りが終わる。祭の真つ最中、旗頭を親子2代で持つという男性と話をした。学校や仕事の関係で島を離れても、この祭が忘れられなくて結局みんな戻ってくる」と笑顔で語る言葉に、この祭に対する島人たちの熱き思いを感じることができた。



▲石垣製糖(株)の旗頭



▲五穀の種子授けの儀



▲クライマックスの大綱引き



▲ツナヌミン



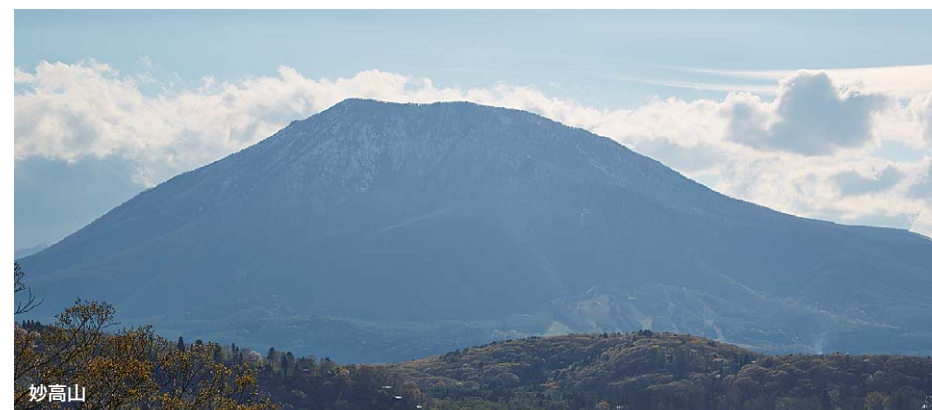
沖縄県

石垣島

Paddy

日本の農業経営についてあなたと一緒に考えたい

【パディ】2014 夏号 vol.49



妙高山



善光寺



野尻湖

BASF
The Chemical Company

「パディ」はBASFジャパンが皆様とのよりよいコミュニケーションのために作成し、無料で配布している情報誌です。農業技術や農業製品についての情報の提供や、実際に製品をお使いいただいている生産者の方々をご紹介するなど、皆様のお役に立つ内容とするよう努力を続けてまいります。

■2014年7月発行 ■編集・発行／BASFジャパン株式会社 〒106-6121 東京都港区六本木6丁目10番1号 六本木ヒルズ森タワー21階 ☎0120-014-660 Fax. 03-3796-9419 <http://www.agriculture.japan.basf.com>

新規有効成分イニシウム®含有で疫病・べと病をダブルブロック

「ザンプロDMフロアブル」はBASF社が開発した新規殺菌成分イニシウム®（一般名：アメクトトラジン）27.0%とジメトモルフ（商品名：フェスティバル®）20.3%を混合した疫病・べと病用新規殺菌剤です。



適用病害と使用方法

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用 方法	アメクトトラジンを含む 農薬の総使用回数	ジメトモルフを含む 農薬の総使用回数
ばれいしょ	疫 病	1000～1500倍	100～300ℓ/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内	3回以内
トマト		250倍	25ℓ/10a					
ミニトマト		1500倍	100～300ℓ/10a					
きゅうり	べと病	1500～2000倍	100～300ℓ/10a	収穫7日前まで	2回以内			2回以内
たまねぎ				収穫60日前まで				
小粒種ぶどう		2000～3000倍	200～700ℓ/10a	収穫30日前まで				
大粒種ぶどう								

有効成分の特性

■ イニシウム®※（一般名：アメクトトラジン）

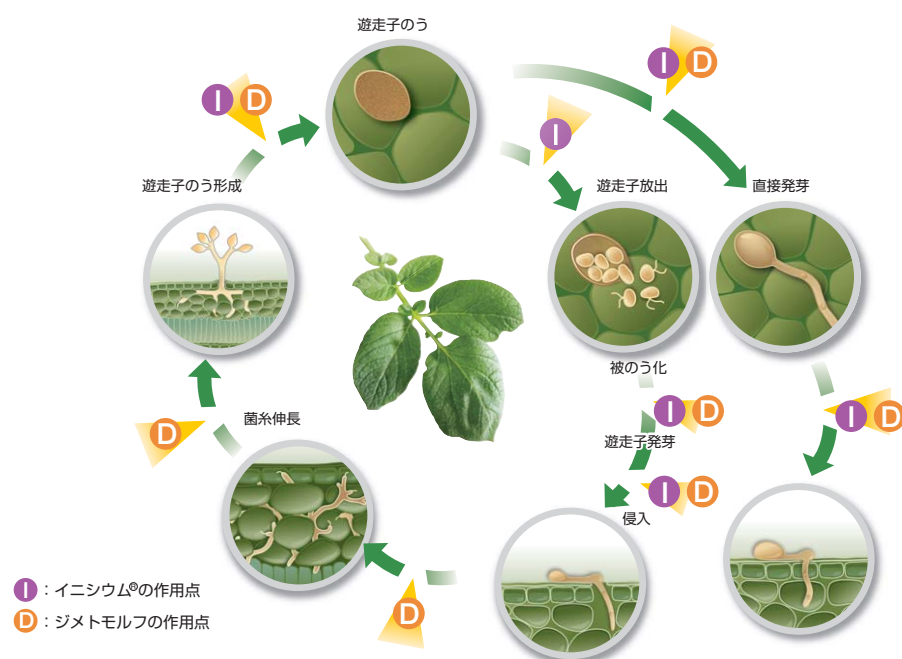
卵菌類（疫病、べと病）に特異的に卓効を示し、優れた予防効果を示します。散布後すみやかに植物表面のワックス層に吸着され、安定した保護層を形成します。この安定した保護層が優れた効果、残効性および耐雨性につながります。

※イニシウム®の作用点は、ミトコンドリアでの電子伝達系に関わる呼吸鎖複合体（Complex III）におけるスチグマテリンサブサイトとの結合であることが確認されています。この作用機作に分類される殺菌剤は、イニシウム®が初めての薬剤になります。

■ ジメトモルフ

卵菌類（疫病、べと病）に特異的に卓効を示し、優れた予防効果を示します。また感染後間もない菌の菌糸伸長も阻害することから治療的に発病を阻止し病勢の進展を抑制する効果もあります（発病阻止効果）。葉裏から葉表への浸達性を有し耐雨性に優れます。

ばれいしょ疫病菌の生活環



2つの有効成分イニシウム®、ジメトモルフは卵菌類（Oomycetes）に属する疫病・べと病に高い抗菌活性を示します。異なる作用機作・特性を持つ2成分を混合することで、両病原菌の生活環を総合的に阻害します。

有効成分	直接発芽	遊走子放出	被のう化	遊走子発芽	菌糸伸長	遊走子のう形成
① イニシウム®	+++	+++	+++	++	+	++
② ジメトモルフ	+++	—	++	+++	+++	+++

+++：強く阻害 ～ —：阻害なし

BASF
The Chemical Company

新規成分配合 疫病・べと病用 殺菌剤

ザンプロ ザンプロディーエム®
DMフロアブル

ダブルブロックで、殺菌。

疫 病



べと病



- 耐雨性に優れる。
- 治療的効果を有する。
- 優れた予防効果。

葉の外からブロック

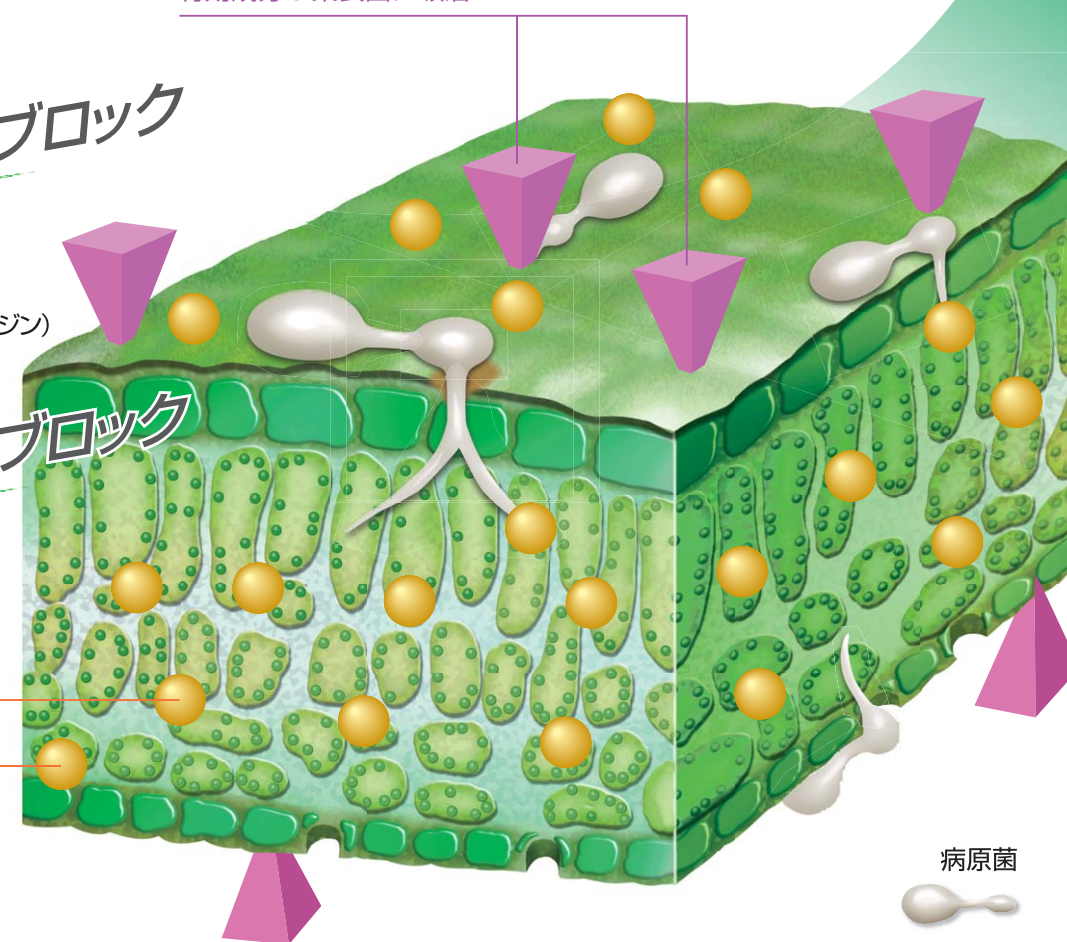
雨に強い成分
イニシウム®
（一般名：アメクトトラジン）

葉の内からブロック

浸み込む成分
ジメトモルフ

有効成分が
葉内に浸達

有効成分が葉表面に吸着



葉断面拡大イメージ

病原菌



JAみなみ信州 営農部 果実課 林 克則さん(33歳)

蔓延させないために、 梅雨入り前の病害予防で、 デランを推奨しています。

「飯田下伊那地域のりんご農家さんは平均年齢が高いので、殿倉さんのように活動的な存在は頼もしい」。こう話してくださったのは、JAみなみ信州の林さん。管内の果樹生産のすべ

てを統括されています。
「自分も含めてですが、管内では、若手が地元の農業を支えていけるような戦略を推し進めています。りんごの『新わい化栽培』もその一つ。この方法は、高密度かつ低い樹高で栽培できるため管理がしやすく、従来の喬木栽培と比べて作業性と高収量が望めます。これらの推進を通じて、ベテラン農家さんはもちろんのこと、これらの南信州を支えていく若い世代の

ためにも、農業をしやすい環境づくりに力を入れていきたいですね」。
防除暦に採用されて5年目となるデランの使用状況についても伺いました。「デランは梅雨入り前の最後の防除、褐斑病と斑点落葉病の予防剤という位置づけでお奨めしています。病原菌は雨によって伝染しますので、梅雨入り前にしっかり感染を止めることが重要なんです」と、お話しくださいました。

「今では、農業が楽しくて仕方ないですよ。野菜ソムリエとして料理の楽しみ方を広めながら、作り手として作物そのものの美味しさも伝えていく。消費者と生産者、その両面から価値を提案できるのが私の強みです。南信州の農業の魅力をもっとと知っていただきたいと思います」と目を輝かせます。

南信州のりんごを、世界へ。 品質維持には、防除が必須です。

高さを改めて感じたと言った殿倉さん。今年、「ポムリエ」の資格を取得したこともその想いの現れです。「ポムリエとは、フランス語でりんごを意味する『ポム』とソムリエによる造語で、飯田の町おこしグループが発足させた『国際ポムリエ協会』の認定資格です。りんごの発泡酒『シードル』の開発、普及など新たな試みを通して、南信州のりんごの魅力を世界に広く発信していきたいです」。

「おかげで就農以来、大きな被害もなく、安心してりんご作りができています。栽培にせよ防除にせよ、一から学べば、私みたいな女性でもできちゃうんです。若い人が農業を始めるきっかけにしてくれたら嬉しいですね」。

心を下地に、溢れるバイタリテイで、活躍の場を自ら切り拓いていく殿倉さん。



長野県飯田市 株式会社太陽農場 殿倉 由起子さん(30歳)

地元の農業を活性化させて、 南信州と世界をつなげたい。 デランも一役買っています。

南信州屈指のりんご産地として知られる、長野県飯田市。
この地に、話題の“農業女子”がいます。
りんご生産の若き担い手として、また、野菜ソムリエとして、
はたまた、りんごの専門家“ポムリエ”として…
地元の未来を想い、さまざまな活動を展開する殿倉さん。
果樹用殺菌剤デランフロアブル(以下、デラン)は、
彼女のりんご作りに、どうお役に立っているのでしょうか。



野菜ソムリエの資格を持つ、 アクティブな女性生産者。

「将来、農家になるつもりはなかった」と話す殿倉さん。観光学を学びたい一心から、18歳で渡英。5年間の留学を経て、帰国後は東京のホテルに就職しました。ところが、運命の出会いにより人生は一転。職場恋愛で結婚した旦那様の強い希望から夫婦で農業を始めることを決断し、平成23年に実家の太陽農場へUターン就農。現在は、「新わい化栽培」の約70aの園地でつがる・シナノスイート・シナノゴールド・ふじの4品種を生産しながら、アスパラガスやズッキーニなどの栽培にもチャレンジしています。

殿倉さんはまた、就農と時を同じくして「野菜ソムリエ」の資格を取得。仲間とユニットを結成し、地元の方々に地場食材の魅力をもっと知ってもらうべく、定期的にレストランイベントも企画運営しています。





散布まで、独自に基準を策定し、きめ細かな管理のもとで栽培しているそうです。



「今日作業をしているこの園地は、高齢で管理ができなくなった農家さ

実りの源になる「葉」を害する、褐斑病。その予防で、ナリアを重宝しています。

りんご作りの未来を見据えて、若いチカラが一致団結。ナリアも支えになっています。



JAながの 北部営農 青年部会は、上水内郡飯綱町の生産者で構成された部会です。

今年で発足4年目を迎える部会には現在、総勢15名の意欲的な若手生産者が在籍。

飯綱町が全国に誇るりんごの生産をはじめ、地元の農業生産の

未来を担っていく彼らには、各方面から熱い期待が寄せられています。

今回は、そんな青年部の「りんご剪定会」にお邪魔し、当日参加されたメンバーの方に、

りんご栽培やナリアWDG(以下、ナリア)についてのお話を伺いました。



長野県上水内郡飯綱町 JAながの 北部営農 青年部会

(写真前方左より)大川 英成さん(40歳)、若林 清壺さん(36歳)、副部長 石井 謙吉さん(40歳)

(写真後方左より)坂口 哲郎さん(31歳)、静谷 信行さん(41歳)



「剪定は、葉っぱに陽を当ててやるための作業です」と話すのは若林

「主力品種は、夏あかり・つがる、秋映・シナノスイート・シナノゴールド・ふじの6種類。質の高いものを目指して労力をかけることは結果的に収入にも繋がるので、量よりも質にこだわっています。飯綱町ならではの美味しいりんごを一人でも多くの方に味わってもらうために、これからも皆で頑張っていくだけです」。落ち着きのある寡黙な人柄から、責任感と意思の強さがうかがえました。



「剪定は、葉っぱに陽を当ててやるための作業です」と話すのは若林さん。Uターンで地元に戻り、専業農家になって3年目を迎えます。「ここに花がありますよね。これが大きな実を結ぶよう、葉が光合成をしやすいようになるように周りの枝を落としていくんです」と、丁寧に教えてください。



「だからこそ、予防は必須。ローテーション防除で病害感染をきちんと防ぐことが重要です」と話を続ける静谷さん。最年長の静谷さんは、部会の立ち上げ当初から2年間、部長を務めておられました。

青年部では今年、成分カウントを慣行の30%減でのぞむ独自の防除暦を作成。3月の展葉期から10月の収穫期までトータルで10数回実行するローテーション防除において、ナリ



いので安心。しかも高希釈で薬剤自体の量が少なくても、むから、扱いやすいです。

アは7月中・下旬の褐斑病の予防で採用されています。「予防力に優れるナリアは、褐斑病対策で活用していますよ。一般的に、良く効く殺菌剤と言われるものは、効果が長続きする分、収穫前日数も長くなるもの。けれどナリアは、病害を長い間抑えられる上に、『前日まで』使えるからありがたい。栽培の都合で、一つの園地に生育状況の異なる品種が複数植えられていることも多く、収穫前日数の短い剤じゃないと散布できないことがあるため、ナリアのような剤が重宝されるんです」。静谷さんはまた、ナリアの使いやすさも評価します。

「顆粒剤で溶けやすく、水和剤と比べて調製時に舞い上がることがない

PICK UP

今号のユーザーズボイスでご紹介しました長野県飯田市の殿倉さんは、南信州発展のために野菜ソムリエのユニットを結成されました。そこで、本コーナーで殿倉さんご自身に野菜ソムリエユニット「YUISAI」をご紹介いただきました。



殿倉 由起子さん

下井 泉さん

私たちYUISAIは2013年5月に地元南信州を野菜果物で人と地域を結びつけたいという想いで結成をした、専業農家の殿倉由起子とお土産商社の営業マンの下井泉の野菜ソムリエユニットです。

「YUISAI」とは活動拠点となっている飯田市の語源ともなっている「結い田」、そして由起子の「ゆ」、泉の「い」から、SAIは野菜の菜、彩りの彩から名付けました。

YUISAIの主な活動は市民団体のやさいWAVEでの食事会の企画運営、「YUISAIベジフルラボ」という旬の野菜果物を紹介する講座です。やさいWAVEでは地元の食材と農家さんを紹介し、地元の皆さんと味わう会を2ヶ月に1回のペースで地元の飲食店にておこなっています。ベジフルラボでは地元の旬の野菜果物を同世代の女性を中心に楽しみながら学んで、味わっていただいています。県内の野菜

ソムリエさんたちと「信州の伝統野菜を学ぶ会」の企画運営も行っており、南信州だけでなく、信州の北と南を伝統野菜を通してつなぐ活動も行っています。今後は南信州の野菜ソムリエとして、野菜果物を通して人と地域を結びつけ、地元の皆さん、県内外の方にも南信州の食材、そして地域の魅力を伝えていく活動を続けていきます。

「YUISAI」の活動内容はこちらでご覧いただけます。
<https://www.facebook.com/vege.fru.yuisai>



STAFF'S REPORT

信頼される営業マンを目指します。

2年半前にBASFに入社する前は、生命科学の研究者でした。研究で培った経験を農業ビジネスの現場で活かしたいとの思いから転職してきたものの、当初は農業については何もわからない素人でした。長野担当になり1年半。営業で接する農業関係者の方々から多くのことを教えていただく毎日です。研究者時代と共通するのはデータを重視する姿勢。データ無しに「効きます」と語っても、ベテラン農家さんに信頼されるはずはありません。信頼される営業マンを目指して、今後とも努力いたします。

BASFジャパン株式会社 農業事業部
関東・甲信越営業 柳川拓志

です」。

若い力が結集し、農業を次代へ繋いでいく。今後もナリアが皆さんの一助となることを願ってやみません。

「2年前に家業を継ぎ青年部に加入したのですが、メンバーには昔から気心の知れた同級生や先輩がいて心強いですし、助けられてもいます。りんご作りは、頑張った分だけ見返りがあって面白い。正直、勤めをしてきた頃よりも毎日が楽しいです(笑)。部員の皆は同志であり、ライバルでもある。お互いに刺激しあいが、皆で良いいりんごを作りたいです」。

大川さん

「生え抜きの生産者だけでなく、新規就農者が多いのも北部営農青年部の大きな特徴。以前は農業の卸会社に勤めていたという大川さんも、その一人です。」

坂口さん
も、異色の経歴の持ち主です。



坂口さん

地元の農業の未来を見すえて、 青年部とともに歩んでいきたい。

「標高が高く、昼夜の寒暖差が大きい飯綱町で作られたりんごは、実がよく締まり、酸味と甘さのバランスが絶妙です」と語るJAながの北部営農センターの大川さんは、4年前の青年部の立ち上げに尽力した一人です。「飯綱町のりんご農家の多くは、70代から80代。高齢化により、リタイアする方や圃場の規模を縮小する方が多く、遊休農地が徐々に増えつつあるのが現状です。当JAには昔から青年部が存在していたのですが、様々な事情により休会していた時期がありました。そこで、何とか若いチカラで盛り上げていけないかと、4年前に現部員の静谷さんに先頭になっていただいて青年部を復活させました。知識や経験にかかわらず農業に意欲的な生産者を集めるスタンスで、再始動を果たした青年部。メンバーは、4年で9名から15名に増えました。「若いチカラで、切磋琢磨。私も全力でサポートしていきます」と決意を新たに大川さん。そんな大川さんに、ナリアについてお聞きしました。「褐斑病に対する予防力の高さで、ナリアは農家さんから信頼されています。実りのためには、りんごの葉を褐斑病の被害から守ることが極めて重要。ナリアはこれからも、飯綱町の未来を背負っていく青年部のチカラになってもらいたいですね」と、力強いお言葉をいただきました。

JAながの 北部営農センター 営農技術員
大川 英明さん(28歳)

読者プレゼント

締切は8月15日消印まで有効

太陽農場の商品詰合わせを 3名様にプレゼント!

今号のユーザーズボイスの取材先、長野県飯田市はアルプス山脈に囲まれ、朝夕の寒暖が激しいという、りんごを育てるのに最適な気候です。その飯田市でりんごを育てて30年の太陽農場さんから、こだわりの商品をプレゼント。甘みたっぷりのシナノスイートで作られたジャムとジュース。定番のふじのうまみが詰まったジュース。そして今年の新作、りんごの発泡酒、シードルの豪華セットです。是非、この機会にご賞味ください。たくさんのご応募お待ちしております。

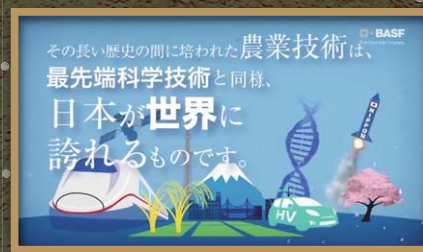
セット内容:ジャム、ジュース(シナノスイート180ml)、
ジュース(ふじ720ml)、シードル(りんご発泡酒2本)

■応募方法:官製ハガキに郵便番号、住所、氏名、年齢、電話番号、職業、栽培作物、Paddyへのご意見・ご感想、希望賞品をお書きの上、下記宛先までご応募ください。FAXでもご応募頂けます。なお当選発表は賞品の発送をもって替えさせていただきます。 FAX番号:03-3796-9419
〒106-6121 東京都港区六本木6丁目10番1号六本木ヒルズ森タワー
21階 BASFジャパン株式会社 農業事業部 Paddyプレゼント係

※個人情報、弊社の個人情報保護規定に従い厳重に管理いたします。第三者への開示・譲渡・貸与などはありません。



「A Hungry Planet」
動画より抜粋



BASFジャパン株式会社 化学品・農業統括本部 農業事業部
マーケティング部 ディビジョンヘッド 奥村 博

「いつも、ごちそうさまです」の想いで、より良いサービスを提供し続けたい。

今や世界は、人口増加に伴う食料需要の拡大に対して、農業の生産力を高めていかななくてはならないという大きな課題に直面しております。私自身も海外に長く身を置き、その重要性を感じながら農業の普及に努めてまいりました。

『A Hungry Planet (ハングリープラネット)』は、そんな背景から誕生したプロジェクトです。世界人口の増加と食料需要の拡大についての注意喚起を前提に、農業生産を支えてくださっている生産者の方々にBASFが今後もサポートしていくという姿勢を広く発信していくことが、その大きな目的です。

私たちBASFが販売している農薬は、消費材ではありません。安定的に農作物を生産するために農家さん自らが必要不可欠なものと理解して活用いただいている「生産資材」です。当プロジェクトは、今後もBASFが良質な生産資材を提供・提案することを通じて、農家さんに貢献し続けていくことを宣言するものです。また同時に、BASFの従業員一人ひとりが、こういった重要な生産活動の一端を担っていることを再確認するためのものでもあってほしいとも考えております。

世界中で、日本ほど安心・安全で、美味しい農作物をつくれる国はありません。私も帰国してから、炊きたてのご飯を食べた時の感動を家族で分かちあいました。りんごなどの果樹も同様、世界では「食べるダイヤモンド」と評されるほど質の高いも

のです。

プロジェクトの日本版には、そうした高い技術を誇る日本の農業と、それを支えてくださっている農家さんに対して、「いつも美味しいものを作っていたらいい、ありがとございます」という感謝の想いが込められています。なかでもムービーの最後に登場する「ごちそうさま」という言葉は、農作物をつくる方々と自然の恵みへの感謝を言い表す、まさに日本独自の表現。私たちBASFのスタンスを象徴する一言だと思っております。

炊きたてのご飯、そして、りんごといちご。私は今朝もまた、美味しい食事をいただきました。これからもずっと、世界中の人々が幸せな気持ちになれるような農作物を、農家さんがつくり続けていくように。私たちBASFはサイエンスに基づいた生産のアドバイスをはじめ、これまで以上に「付加価値のあるサービス」を提供。農家さんの生産効率の向上と収量増加を叶えるために、ともに歩んでまいります。

「いつも、ごちそうさまです。」

「プロフィール」
昭和42年3月生まれ。平成3年に総合商社へ入社後、世界的種子メーカーを経て、平成23年BASFシンガポール入社。殺菌剤・マーケティング担当として活躍後平成26年4月にBASFジャパン農業事業部のマーケティング部長に就任。現在に至る。フランス、インド、シンガポールなどの豊富な勤務経験を活かし、幅広い見地から世界の農業を見つめるマーケティングのスペシャリスト。

こちらの方法でスマートフォンやタブレットPCから「A Hungry Planet」の動画をご覧ください。BASFジャパンの取り組みを是非ご確認ください。

【BASFジャパンwebサイトでもご覧いただけます ▶ <http://www.agriculture.japan.basf.com>】

Step.1 無料アプリ(COCOAR)をダウンロード。

iPhoneやiPadは

Android端末は



左記サイトで「COCOAR」もしくは「ココアル」と検索すると比較的簡単にダウンロードできます。



COCOAR
(ココアル)

パンダのマーク
が目印です。

Step.2 アプリを起動し、上記写真いずれかにスマートフォン(タブレット)をかざす。



「SCAN」を
タップして
ください。



画面枠内に写真が入るように
カメラを合わせてください。



読み込みが完了すると自動で再生。画面
をタップすると大きく表示されます。

- 対応OS: iOS5.0以上、Android 4.0系 (Androidの一部対応していない機種がございます)
- 通信回線混雑状況により画像認識や動画再生が遅くなる場合があります。
- カメラのピントが合わなかったり、光で反射するなどで読み込めない場合があります。